活　動　報　告

日本語・日本事情（１９９６年4月～１９９７年3月）

田　村　泰　男
（広島大学留学生センター・講師）

1．授業科目一覧

授業科目	開設単位数	学期別週授業時数 前期	後期	通年	備考
◎ 日本語初級 I	1	2	2		広島大学外国人留学生のための授業である。日本語初級Ｉから日本語中級Ｖまでは通年の授業ではない。◎印の授業は西条、霞の両地区で開講。
◎ 日本語初級 II	1	2	2		
日本語初級 III	1	2	2		
◎ 日本語中級 I	1	2	2		
◎ 日本語中級 II	1	2	2		
日本語中級 III	1	2	2		
日本語中級 IV	1	2	2		
日本語中級 V	1	2	2		
日本語中級 VI	2	2	2		
日本語中級 VII	2	2	2		
日本語中級 VIII	2	2	2		
日本語上級 I	2	2	2		
日本語上級 II	2	2	2		
日本語上級 III	2	2	2		
日本語上級 IV	2	2	2		
日本語上級 V	2	2	2		
日本語上級 VI	2	2	2		
日本語上級 VII	2	2	2		
日本事情 I	2	2	2		
日本事情 II	2	2	2		
日本事情 III	2	2	2		
日本事情 IV	2	2	2		
日本事情 V	2	2	2		
日本事情 VI	2	2	2		
日本事情 VII	2	2	2		
日本文化	2	2	2		
日本語特講	15		30		

2．授業内容

（西条キャンパス）

授業科目	開設学期	担当教官
日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	前期・後期	深見兼見・中川正弘・下村真理子・山中康子

目標

かなおよび初歩的な文法、簡単な漢字の読み方を習得させる。

内容

初歩的な文法事項の説明、文章音読練習（文法の理解を兼ねる）、口頭および筆記による文型練習。

日本語中級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	前期・後期	浮田三郎・中川正弘・堀田泰司・渡辺久美

目標

初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身につけさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。

内容

短文を中心に構成され、会話を多く取り入れた教材を用い、場面に応じた適切な表現を学びながら、既習の語彙・文型・表現の応用練習を行なう。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習、書く練習によって学習し、より日本語らしい表現の習得を目指す。

日本語中級Ⅳ・Ⅴ	前期・後期	山中康子・渡部浩見

目標

中級レベル前半を終えた学生を対象とし、主に読解力を身につけることを目的とする。

内容

教科書に添って、毎回ひとつのテーマを中心に読解、文章表現の練習をする。あわせて、漢字、文章の書き取り、短い作文の練習など、学生の日常生活に役立つ文章語の表現能力を養う。

日本語中級Ⅵ	前期	下村真理子
	後期	中川正弘

目標

人に伝えたい考えや気持ち、言葉で表したい内容を日本語で表現する能力を高める。

内容

「読む」、「聞く」など、受動的な学習に偏りやすい中級日本語学習者の日本語運用能力がどのようなものであるかを提出させる作文によって確認し、そこに現れる間違いの分析によって、文法の理解を正すと同時に、上級日本語、さらには日本人の日本語に近づくために、日本語について文法以外にどんなことを知らねばならないかを考えていく。

日本語中級Ⅶ・Ⅷ	前期	田村泰男
	後期	下村真理子・鴨瀬昌幸

目標

中級Ⅳ・Ⅴまでに学習してきた項目について確実に運用できるようにさせるとともに、日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけさせる。

内容

読解用の文章を読むことによって、既習の文型・語彙・表現を整理し、併せて新しい文型・語彙・表現を学習する。その際、口頭練習で定着をはかるとともに、書き言葉に属する言い回し、或いは文型を「書く」作業によって練習し、文章レベルで理解をはかる。これらの作業の後、教材の内容理解を確認するために練習問題を使って質疑応答を行なう。

日本語上級 I	前期・後期	深見兼孝

目標

時事日本語の聴解能力養成。あわせてそれに特有の語彙・表現を学習する。

内容

A．時事論評を聞き、その内容を理解する練習を行う。後にそれを文字化したものを読み、理解を補足する。さらに重要語句の使い方について練習する。

B．ニュースを聞き、i）その内容を理解する練習を行う（後にそれを文字化したものを読み、理解をチェックする。ii）スクリプトの完成を行う。

日本語上級 II	前期・後期	中川正弘

目標

日本語における「表現」のさまざまな側面を考察することで、内容や文法のレベルにとどまらず、表現行為や解釈行為まで含めた「ことば」とはどんなものであるかを理解する。

内容

文章練習とその徹底的な分析を柱とする。ほぼ毎週短い作文を提出してもらい、これは当然添削し返却するが、添削では到底表すことができない日本語という言語の問題、誤用の分析、また言葉の「選び」などに表れた日本文化、日本社会の考察を通して、外国人の日本語と日本人の日本語を隔てているものが何であるか検討してゆく。

日本語上級 III	前期・後期	多和田眞一郎

目標

日本人のものの見方、考え方について理解を深めるとともに、それを題材とする討論により（日本語の）口頭表現能力を高める。

内容

「オモテとウラ」「ウチとソト」「ホンネとタテマエ」などの日本人のものの見方・考え方、行動様式に関して記述された文章を読む。また、「文化」をいかに捉え、理解すべきかについても考察を加える。

日本語上級 IV	前期・後期	田村泰男

目標

慣用句を中心とした語彙や上級文法を習得させることによって日本語の読解力・文章表現力を養わせる。併せて言語表現の背後にある日本の文化や社会現象についての知識を身に付けさせる。

内容

主として新聞の「経済」「政治」「社会」「文化」面から、日本の実社会を反映している題材や身近な題材をとり、それにい漢字の読み書き・慣用句の意味・文法などを問題として加えて編集したものをテキストとして用いる。授業では、まず「読める」ことを第一とし、次に個々の文章の意味が正確に理解できるように語彙の意味、表現を整理していく。これらの作業の後、題材についての説明を行い、クラスでその内容についての討論を行う。

日本語上級 V	前期・後期	鴨瀬昌幸

目標

コンピュータの基本的な取り扱い方法・タイピングを習得すると共に、コンピュータ上で日本語の文章を作成する能力を身に付ける。余裕があれば、他言語混在文書の作成、日本語データ処理にも触れたい。

内容

1 コンピュータの基本的な取り扱い　　2 タイピング

3 ソフトウエアの基本操作

4 日本語の入力

1 入力方式　2 ひらがな・カタカナ　3 漢字の変換と選択　4 記号　5 他言語の文字

5 文書作成実習

日本語上級 VI	後期	奥田邦男

目標

日本語の話す・聞く・読む・書く運用能力を高める。日本語の敬語の体系について、理解を深める。日本語でスピーチできるようになる。

内容

1　日本語のテレビ・ドラマを視聴し、文字化された教材を使って、日本語の実際を学び、日本文化について話しあう。

2　日本人のために書かれた、あいさつの仕方、電話のかけ方等の本を読み、日本語の敬語の使われ方を学習する。

3　自分の関心のあるテーマについて、スピーチの原稿を書く。日本語のアクセント、イントネーション、ポーズのとり方などに注意しながら、日本語が話せるようになることの練習を行う。

日本事情 I	前期・後期	浮田三郎

目標

日本の諺を学ぶことにより（時には世界各国の諺と対照比較して）、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などの理解を目指す。

内容

日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などを学習する。各国の諺がもっているテーマやそこで使用されている素材を考える。諺の表現の特徴やおもしろさを考える。簡単なクイズ形式の設問を用いて考えてみる機会を与える。各々の諺について、留学生達の意見、対照比較できるような自国の諺や表現とその考え方を発表してもらい、意見の交換をする。

日本事情 II	前期・後期	西川節行

目標

日本をよりよく理解するために必要な、日本の文化、社会に関する知識を学習する。

内容

留学生の関心、希望を勘案して、テーマを選定するが、出来るだけ、現在の日本の社会の動きを、そのまま反映するようなテーマとする。

1　現代日本をより深く理解するための知識として、現代の日本の産業、経済、経営と諸問題、或いは現代の日本の政治、社会、文化と諸問題など。

2　広島をよりよく理解するための広島事情。

3　日本についての歴史、社会、文化など基礎的な知識。

なお、機会をみて、県庁、市役所などの公共施設や、企業など経済施設の見学を行う。

日本事情 III	前期・後期	今石正人

目標

日本映画を通して、歴史・社会・文化・時代について理解を深める。

内容

「羅生門」「生きる」「東京物語」「砂の女」「心中天網島」「寅次郎夕焼小焼け」「家族ゲーム」を鑑賞し、質疑応答、ディスカッション形式で　意見の発表・交換をする。

日本事情Ⅳ	後期	浮田三郎・橋本敬司

目標

日本という風土の特性と日本人の精神性について、宗教・美学・文学の面から考察し、また異文化と比較考察することを通して学習者それぞれの新たな日本を発見し創造する。

内容

「古事記」「古今和歌集」「花伝書」芭蕉の俳諧、近代現代詩、新聞記事などを精読しどのように感じ考えたか互いに意見を発表交換する。また異文化と比較してその意見を発表交換する。更に日本語の感覚を養うために俳句などの短詩あるいは短文を各自創作する。

日本事情Ⅵ	前期	水町伊佐男

目標

パーソナルコンピューターの日本語ワープロソフトを使い、日本語の発音・文字・表記の問題を中心に、日本語使用について学習する。

内容

パソコンの基本的操作を学習したあと、文字入力と漢字変換の操作をしながら、清音・濁音・半濁音，促音，撥音，拗音，直音，長音，音・訓，連濁，四字熟語，同訓異字，カタカナ表記などの問題を考える。更に、各自の名刺作り、暑中見舞いの書状の作成を通して日本の文化を考える。また、授業の感想などを日本語ワープロソフトで書き、レポート作成の基礎を学ぶ。

日本事情Ⅶ	前期	鴨瀬昌幸

目標

コンピュータで日本語を扱うためには、多数の問題点が克服されねばならなかった。本講では、この点を踏まえつつ、コンピュータ上の日本語処理についての理解を深め、自身で日本語処理を体験する。併せて、マニュアル等にみられるコンピュータ関連の語いの習得を目指す。

内容

第一章　ワードプロセッサ

1ワードプロセッサ以前　2ワードプロセッサの誕生　3ワープロソフトへの進化

第二章　コンピュータ上の日本語処理入門

1．概説　2．日本語入力(1)　3．日本語入力(2)　4．データ処理

5．通信ネットワーク　6．処理実習

日本語特別講義	後期	多和田・浮田・中川・深見・田村・山本・佐藤・高永・渡部・下村・鴨瀬

目標

日本語の音声、文字（かな、漢字380字）に習熟し、日本語能力の基礎となる文法、語彙（1,400語）を体系的に習得する。

内容

質・量ともに相応の教科書、補助教材を用い、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力をバランスよく伸ばすための集中的な学習を行う。

日本文化	前期・後期	多和田・浮田・中川・深見・田村・堀田

目標

日本文化のさまざまな側面について、より深い知識と理解を得させる。

内容

日本の社会問題、現代および伝統文化、日本人の行動様式や思考等に関する講義、文化施設への見学等。

（霞キャンパス）

授業科目	開設学期	担当教官
日本語初級 I ・ II	前期・後期	山中康子・渡部浩見
目標 日本語を初めて学ぶ学生に、発音、文字、会話、基本文型を教える。 **内容** ひらがな、カタカナの発音、表記から始め、漢字、数量の表現、単純な構文、初歩的な会話を、指定の教科書に添って学習・練習し、同時に基本文法を学ぶ。受講生の状況に応じて必要な範囲で英語を媒介言語とする。		
日本語中級 I ・ II	前期・後期	内藤裕子・渡部浩見
目標 ごく初歩の日本語を終えた学生の運用能力（聞く・話す・読む・書く）を高める。 **内容** 初級で学んだ日本語の基礎を応用できるよう学生が日本語で質問、応用する機会を多くつくる。更に少し複雑な表現、文型になじむようパターン練習を繰り返し行い、基礎文法の仕上げをする。授業は教科書に添って行われるが、必要に応じて復習と応用練習をする。		

日本語研修コース

中　川　正　弘
（広島大学留学生センター・助教授）

【修了者】

第二十三期（1996年４月～96年９月）（20名）

氏　　名	呼び名	出身国	生年	専　攻	専門教育
Mahaulpatha,Dharshani Waningatunga Arachchige	マハウルパタ	スリランカ	1965	生物環境科学	広島大学
Ngohayon, Serafin Lintop	セラフィン	フィリピン	1967	心　理　学	〃
Carvalho, Moises Kirk	キ　ル　キ	ブラジル	1972	教　育　学	〃
Szabo,Orsolya	サ　ボ　ー	ハンガリー	1968	教育行政学	〃
Bobkov, Sergei Aleksandorvich	セルゲイ	ロ　シ　ア	1968	日本語学	〃
Carvalho, Monica Da Costa	モ　ニ　カ	ブラジル	1967	医　　学	〃
Udijanto,Tedjosasongko	ウディヤント	インドネシア	1968	歯　　学	〃
Hewagamage, Kamaranatht Priyantha	ヘワガマゲ	スリランカ	1966	情報処理工学	〃
Suryadi	スリヤディ	インドネシア	1968	電気工学	〃
Hach, Lubos	ル　ボ　ス	チ　ェ　コ	1962	機械工学	〃
Asep Sudarman	アセップ	インドネシア	1964	動物栄養学	〃
Lacuna, Dorothy Garcia	ドロシー	フィリピン	1966	生　物　学	〃
Venegas Morales, Claudia Andrea	クラウディア	チ　　リ	1969	応用生物学	〃
Priyatno Harsasto	プリヤトノ	インドネシア	1961	政策科学	〃
Ton, Quang Minh	トン、クアン、ミン	ヴェトナム	1964	経　済　学	山口大学
Varisanga, Modest Diamond	ヴァニサンガ	タンザニア	1963	獣　医　学	〃
Adi Djoko Guritno	ア　デ　ィ	インドネシア	1963	獣　医　学	愛媛大学
Pangandaman, Samad Sarip	サ　リ　プ	フィリピン	1963	獣　医　学	〃
Solante, Emelita Pongcol	エメリタ	フィリピン	1961	獣　医　学	〃
Liu Kin	ケ　　ン	香　　港	1972	経　営　学	広島県立大学

第二十三期（1996年10月～97年３月）（12名）

氏　　名	呼び名	出身国	生年	専　攻	専門教育
Ikapi, Arsene	イカビ	ガボン	1967	アメリカ文明研究	広島大学
Alcaide, Elma Agaton	エルマ	フィリピン	1966	環境生物学	〃
Monzon,Ivis Cespedes	イビス	キューバ	1962	日本文学	〃
Orlando, Ugo Souto	ウゴ	ブラジル	1971	環境工学	〃
Gopalrajan Sugumar	スグマール	インド	1962	水産学	〃
Bayalieva, Aidai Apsalbekovna	アイダイ	キルギス	1974	日本文化	〃
Nakorn, Boonmee	ブーンミー	タイ	1962	理科	島根大学
Lee, Yong Pyo	イー	韓国	1967	教育学	〃
Silva, Cicera Maria Satiro Da	シセラ	ブラジル	1969	英語	〃
De Guzman, Manuel Reyes	マニュエル	フィリピン	1966	設計工学	山口大学
Changmai, Arunwan	チャンマイ	タイ	1964	理科教育	高知大学
Cabahug, Bernardino Barte	ベルナルディーノ	フィリピン	1966	教育学	〃

日本語研修コース第22期（1996年度前期）

	期　　日	行事／試験等	特別研究指導	備　　考
	4／11	11:30 オリエンテーション		13:00 ホストファミリー案内
0	4／12	11:00　開講式	午後　クラスミーティング	
1	4／15～4／19		4／19(金) 見学（広島市）	
2	4／22～4／26		4／24(水)13:00 健康診断	
3	4／29～5／3			4／29(月)公休日 5／3(金)公休日
4	5／6～5／10			5／6(月)公休日
5	5／13～5／17			
6	5／20～5／24	5／21(火) 第1回試験	5／24(金) 見学（岩国市）	
7	5／27～5／31			
8	6／3～6／7			6／6(木) 「専門用語」開始
9	6／10～6／14	6／11(火) 第2回試験	6／14(金) 見学（尾道市）	
10	6／17～6／21			
11	6／24～6／28			
12	7／1～7／5			
13	7／8～7／12	7／11(木) 第3回試験	7／13(土)・14(日) ビッグジャンボリー	
14	7／15～7／19			
15	7／22～7／26		7／24(金) 見学（マツダ工場）	
	7／27～8／31	夏季休業		
16	9／2～9／6			
17	9／9～9／13	9／11(水) 第4回試験		
18	9／16～9／17	特別講義		9／16(月)公休日
00	9／18	終了式　15:00		

日本語研修コース第23期（1996年度後期）

	期　　日	行事／試験等	特別研究指導	備　　考
	10／14	11:00 オリエンテーション		
0	10／16	11:00　開講式	午後　クラスミーティング	12:30 ホストファミリー案内
1	10／16～10／18		10／18(金) 見学（広島市）	
2	10／21～10／25			10／24(木)13:00 健康診断
3	10／28～11／1			11／2(土) ホストファミリー対面
4	11／4～11／8			11／4(月)公休日 11／5(火)創立記念日
5	11／11～11／15		11／15(金) 見学（宮島）	
6	11／18～11／22	11／19(火) 第1回試験		11／23(土)公休日
7	11／25～11／29			
8	12／2～12／6			12／5(木) 「専門用語」開始
9	12／9～12／13		12／14・15(土・日) 高宮町ホームスティ	
10	12／16～12／20	12／18(水) 第2回試験		
	12／23～1／7	冬季休業		
11	1／8～1／10			
12	1／13～1／17			1／15(水)公休日
13	1／20～1／24			
14	1／27～1／31	1／31(金) 第3回試験		
15	2／3～2／7		2／14(金) 見学（マツダ工場）	
16	2／10～2／14			2／11(火)公休日
17	2／17～2／21			
18	2／24～2／28	2／24(月) 第4回試験		
19	3／3～3／4	特別講義		
00	3／5	終了式　15:00	成果発表　13:20	

日本語研修コース関係講師一覧

第二十二期（1996年４月～96年９月）

専　任	多和田　眞一郎	浮　田　三　郎	中　川　正　弘	深　見　兼　孝
	田　村　泰　男	橋　本　敬　司		
非常勤	今　石　正　人	橘　　孝　司	谷　口　秀　治	廣　中　　環
	松　尾　　馨	山　中　康　子		

専門用語解説

総合科学部－海堀正博、西川節行／**教育学部**－相原和邦、利島保、松田文子、山崎博敏／**経済学部**－文柄烈、ピントドスサントス・ジョゼ・ミゲル／**医学部**－隅井浩治／**歯学部**－香西克之／**工学部**－福島博／**生物生産学部**－藤田正博、上眞一、室賀清邦、鈴木寛一／**国際協力研究科**－中逵啓示

第二十三期（1996年10月～97年３月）

専　任	多和田　眞一郎	浮　田　三　郎	中　川　正　弘	深　見　兼　孝
	田　村　泰　男	橋　本　敬　司		
非常勤	今　石　正　人	橘　　孝　司	谷　口　秀　治	廣　中　　環
	松　尾　　馨	山　中　康　子		

専門用語解説

総合科学部－西川節行／**教育学部**－相原和邦、池田秀雄、藤川信夫／**学校教育学部**－深澤清治／**工学部**－福島博、久保川淳司／**生物生産学部**－室賀清邦／**国際協力研究科**－松岡俊二

日本語・日本文化研修プログラム

深　見　兼　孝
（広島大学留学生センター・助教授）

広島大学では、昭和60年度より日本語・日本文化研修留学生を受け入れているが、昭和62年度より特別経費の交付を受け、「日本語日本文化研修プログラム」を開始し、現在に至っている。このプログラムは、日本語研修（「日本語日本事情」で開設されているクラスから選択）、指導教官の下での課題研究、日本語日本文化特別講義・見学プログラムからなる。平成７年度後期、および平成８年度前期の日本語日本文化特別講義・見学プログラムの概要は、次の通りである。

なお、研修生は研修の終わりに研修成果をレポートにまとめ、指導教官と留学生センターに提出することになっている。留学生センターはそれらのレポートをまとめ、レポート集として刊行する。

平成７年度後期

10月13日（金）　開講式・オリエンテーション
10月20日（金）　映画上映
10月27日（金）　見学　東広島市史跡巡り　　飯田米秋（郷土史家）
11月10日（金）　見学　広島市
11月17日（金）　講義　「現代日本の女性問題」　平田冨美子（ＩＷＡＤ）
11月24日（金）　映画上映
12月１日（金）　見学　宮島
12月５日（火）　講義　「日本の民話」　　栗原秀雄（広島文教女子大学）
12月12日（火）　講義　「日本の方言１ー概論」　高永　茂（広島文化女子短期大学）
12月22日（金）　見学　岩国市
１月12日（金）　見学　広島刑務所
１月19日（金）　講義　「日本の方言２ー沖縄方言」　町　博光（広島大学教育学部）
１月26日（金）　講義　「日本の伝統芸能」　　青木孝夫（広島大学総合科学部）
２月２日（金）　見学　マツダ
２月９日（金）　講義　「日本近代文学」　　相原和邦（広島大学教育学部）
２月16日（金）　映画上映
２月25日（日）－27日（火）　スキー研修（道後山）
３月５日（火）－７日（木）　陶芸実習　　川原浩二（陶芸家）

平成８年度前期

５月10日（金）　見学　白牡丹酒造

５月31日（金）　見学　筆作り工場（ほうこ堂）

６月２日（日）　見学　壬生の花田植え

６月14日（金）　見学　はきもの博物館

７月13日（土）－14日（日）　キャンプ

９月13日（金）　修了式・懇親会

教員研修留学生コース
（1995年10月～1996年9月）

峯　　正　志※
（広島大学留学生センター・助手）

Ⅰ．研修プログラム概要

A　教育学

a）教育学、心理学、教科教育学に関する英語による講義演習。（一年）

b）授業参観、特別活動見学をはじめ、その他各種の教育施設、社会教育施設の見学。（一年）

c）課題研究－指導教官の下で、各自の研修テーマを研修。（一年半）

B　日本文化、日本事情（一年）

a）日本文化、社会に関する多方面からの英語による講義、実習

b）文化活動に参加、各種文化施設の見学。

C　日本語教育

a）日本語特講（初級～中級レベル）。（6ヵ月）

b）上記以外の日本語・日本事情のクラス。（学生の能力、必要に応じて）

D　研修論文およびアブストラクトの作成

Ⅱ．研修プログラム内容

A　教育学

1）講義・演習

1995/11/30（木）	「日本の教育制度」留学生センター助教授　黒田則博
1996/1/19（金）	「各国の教育事情」教育学部教授　二宮　晧
1996/1/22（月）	「日本の教員養成」国際協力研究科教授　田畑佳則
1996/2/14（水）	「日本の教育行政」学校教育学部助教授　林　孝

※　1996年12月20日をもって金沢大学留学生センターに転出。

2）学校・教育施設見学

1995/10/27（金）　東広島市中央公民館・東広島中央図書館
1995/12/11（月）　広島大学附属小学校・広島大学附属中学校・広島大学附属高等学校
1996/1/12（金）　広島大学附属幼稚園
1996/2/5（月）　広島市教育センター・広島県教育委員会
1996/6/7（金）　広島市立広島養護学校
1996/6/17（金）　呉工業高等専門学校
1996/7/2（火）　広島朝鮮中・高級学校・広島ＹＭＣＡ学園

B　日本文化・日本事情

1）講義・演習

1996/1/19（木）　異文化間コミュニケーション・セミナー

2）見学

1995/11/10（金）　広島市
1995/12/1（金）　宮島町
1996/2/16（金）－2/17（土）　福山市
1996/7/26（金）　マツダ

C　日本語教育

1）日本語特講（1995年10月～1996年2月。週平均30時間）

	9:45－10:30	10:50－12:20	13:10－14:40	15:00－16:30
月	浮田	中川	田村	浮田
火	多和田	中川	鴨瀬	大槻
水	深見	佐藤	渡部	渡部
木	深見	田村	鴨瀬	大槻
金	…	田村	山本	多和田他4名

多和田　眞一郎　広島大学留学生センター教授
浮　田　三　郎　広島大学留学生センター教授
中　川　正　弘　広島大学留学生センター助教授
深　見　兼　孝　広島大学留学生センター助教授
田　村　泰　男　広島大学留学生センター講師

山　本　雅　美	広島大学教育学部講師
佐　藤　暢　治	広島大学教育学部助手
大　槻　温　子	広島大学教育学部非常勤講師
鴨　瀬　昌　幸	広島大学教育学部非常勤講師
渡　部　浩　見	広島大学教育学部非常勤講師

2）上記以外の日本語・日本事情のクラス（1996年4月～1997年3月。能力と必要に応じて選択）

D　その他

1995/11/17（金）－11/19（日）インターナショナル・ユース・セミナー
国立江田島青年の家

1996/ 2 /22（木）－ 2 /24（土）研修旅行（琴平町・高松市）

1996/ 7 /13（土）－ 7 /14（日）青少年との国際交流キャンプ"BIG JAMBOREE"
（広島市似島臨海少年自然の家）

日本語教育に関するその他の活動

橋　本　敬　司
（広島大学留学生センター・助手）

1　映画上映

留学生の日本語教育・日本文化教育の一環として、今年度も夏休みを利用して下記の日程で映画の上映を行った。

1996年夏休み　映画上映日程

7月12日　（金）　13:30～『シコふんじゃった』
7月17日　（水）　13:30～『家族ゲーム』
7月19日　（金）　13:30～『ダイ・ハード』
7月22日　（月）　13:30～『2001年宇宙の旅』
7月24日　（水）　13:30～『119』
7月29日　（月）　13:30～『ふたり』
7月31日　（水）　13:30～『インディージョーンズ』
8月 5日　（月）　13:30～『ブレード・ランナー』
8月 6日　（火）　13:30～『ヤング・フランケンシュタイン』
8月 7日　（水）　13:30～『お葬式』
8月 8日　（木）　13:30～『マルサの女』
8月 9日　（金）　13:30～『フライド・グリーン・トマト』
8月20日　（火）　13:30～『惑星ソラリス』
8月21日　（水）　13:30～『台風クラブ』
8月22日　（木）　13:30～『東京デラックス』
8月23日　（金）　13:30～『河童』
8月26日　（月）　13:30～『遠雷』
8月28日　（水）　13:30～『全身小説家』

2　留学生センター講演・討論会

1997年1月10・11両日にわたって、「日本語・日本文化研修のあるべき姿を求めて」と題して講演・討論会を行った。広島大学、京都大学、鹿児島大学、慶應義塾大学それぞれの日本語・日本文化研修の現状と課題に関する発表を基に、それぞれの大学のかかえる問題・課題が提示されるなど、活発に意見が交換された。詳細は、報告書に譲る。以下に、講演・討論会のプログラムと参加者名簿を掲載する。

広島大学留学生センター
講演・討論会（1997年1月10日・11日）

「日本語・日本文化研修のあるべき姿を求めて」

プログラム

1月10日(金)

10:00	＊挨拶	広島大学留学生センター長　多和田眞一郎
10:10	＊参加者紹介	
10:20	1．講演	「広島大学の現状と課題」 深見兼孝　広島大学留学生センター助教授
11:00	2．講演	「京都大学の現状と課題」 森眞理子　京都大学留学生センター助教授
11:40	休憩（昼食）	
13:00	3．講演	「鹿児島大学の現状と課題」 松尾善弘　鹿児島大学教育学部教授
13:40	4．講演	「慶応義塾大学の現状と課題」 長谷川恒雄　慶應義塾大学国際センター教授
14:20	＊休憩	
14:40	5．質疑・討論会	

1月11日（土）

10:00	1．討論会
12:00	散会

広島大学留学生センター
講演・討論会全参加者名簿

北海道大学　留学生センター	佐藤　豊
東北大学　留学生センター	佐藤　勢紀子
宮城教育大学　教育学部	市瀬　智紀
筑波大学　文芸・言語学系	高田　誠
千葉大学　留学生センター	日暮　尚子
東京学芸大学　教育学部	谷部　弘子
お茶の水女子大学　大学院人文科学研究科	本郷　逕子
電気通信大学　留学生センター	池田　裕
新潟大学　人文学部	土屋　千尋
富山大学　教育学部	加藤　扶久美
金沢大学　留学生センター	岡澤　孝雄
福井大学　教育学部	田中　光子
静岡大学　人文学部	堀　博文
京都大学　留学生センター	森　眞理子
大阪外国語大学　留学生日本語教育センター	奥西　俊介
奈良教育大学教育学部	澤田　田津子
鳥取大学　教育学部	谷守　正寛
島根大学　法文学部	酒井　董美
岡山大学　経済大学	岡　益巳
高知大学　人文学部	山本　恭子
福岡教育大学　教育学部	飯田　史也
熊本大学　留学生センター	小脇　光男
宮崎大学　教育学部	高野　泰邦
鹿児島大学　教育学部	松尾　善弘
琉球大学　教養部	川平　博一
慶応義塾大学　国際センター	長谷川　恒雄
南山大学　外国語学部	伴　紀子
広島大学　教育学部	今田　滋子
広島大学　教育学部	白川　博之
広島大学　教育学部	迫田　久美子
広島経済大学	渡邊　久美
広島大学　留学生センター	多和田　眞一郎
広島大学　留学生センター	浮田　三郎
広島大学　留学生センター	黒田　則博
広島大学　留学生センター	中川　正弘
広島大学　留学生センター	深見　兼孝
広島大学　留学生センター	田村　泰男
広島大学　留学生センター	堀田　泰司
広島大学　留学生センター	田中　共子
広島大学　留学生センター	橋本　敬司

留学生指導部門

黒田則博
(広島大学留学生センター・助教授)
田中共子
(広島大学留学生センター・助手)

指導部門の主たる役割は、「外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導助言」及び「海外留学を希望する学生に対する修学上及び生活上の指導助言」(『広島大学留学生センター規程』)を行うことであるが、留学生センターの設立の経緯や趣旨からして、前者に関する活動が大半を占める。しかし近年、外国人留学生の増加に伴って、留学生の指導に携わる者全員が連携・協力して全学が一体となって対応する必要性が高まり、本指導部門の役割も留学生に対する直接的な指導・助言に加え、全学的な連携・協力のための連絡・調整及び支援の機能も果たすようになっている。

1. 留学生相談

(1) 相談体制

1990年のセンター設置時から、センター内の指導部門担当教官の研究室及び国際交流会館内の2ヶ所に留学生のための相談室が設けられ、指導担当部門の教官2名(うち1名は国際交流会館主事)が相互の連携をとりながら、随時留学生に対し指導・助言(日本語及び英語による)を行ってきた。

しかし、留学生数の増加に対応するとともに、留学生のニーズにあったよりきめの細かい相談を行えるようにするため、1996年4月から新たに留学生相談員(非常勤)2名を配置した。これら相談員は、保健管理センターの協力を得て、同センター内でそれぞれ週一回(月・木12:30〜16:30)留学生の相談に応じている。相談員による相談終了後は毎回、指導部門担当教官と指導方法等について検討を行うなど、緊密な連携をとりながら留学生相談に取り組んでいる。

当センターが留学生相談に取り組むに当たっての方針として、ほんの些細な情報を求めてくる学生や単に話し相手がほしくて来室する者など、誰でもが気軽に来られるよう、あえてカウンセリングといった言葉は使わないように配慮している。これは、日本人学生、外国人留学生を問わず、大きな悩みや問題を抱える学生ほど相談に来ないという傾向がみられることから、小さなきっかけから相談室を訪れることができるようにとの期待によるものである。また同じ理由から、各学部等の協力を得て、広くポスターを掲示するなど当センターによる留学生相談の広報に努めている。

(2) 相談の内容・件数

これまで当センターが行った留学生相談の内容を分析すると、大きく分けて2種類に分けられる。ひとつは、第一種相談と呼ばれるもので、心理的問題、健康の問題、進路の問題などが含まれる。第二種相談と呼ばれるのものには、学習の問題、学内・市民生活の問題が含まれる。前者は、①異文化間接触から生ずる問題についての相談、②心理相談、③健康相談、④話し相手、⑤進路相談などが必要とされ、相談員の専門性が要求される。一方後者は、⑥語学、⑦学業、⑧問い合わせ・要望などが含まれ、これについては「相談」の専門性というよりは、学問的な専門家あるいは制度・手続き担当者として、情報提供、代行、補助といった援助的関わりが求められる。

上述したとおり、同センターではこれらいずれの相談に対してもその窓口となり、必要な情報提供を行うとともに、異文化間カウンセリングや教育相談の専門家として指導助言を行ってきた。また、健康問題や精神医学的な専門性が要求される場合など、当センターでは処理できない問題については、保健管理センターをはじめ学内外の機関と連携・協力をとりながら留学生相談を実施している。

相談の件数についてみると、圧倒的に多いのは後者であり、特に⑧問い合わせ・要望である。1995年度で相談の総件数は、単純な問い合わせを含めれば年間1,000件を超え、うち専門性を要する複雑な問題は200件程度である。まだ1996年度の年間の相談の総件数は分からないが、先に述べたように、相談担当者の増員、相談室に関する広報の充実などの体制整備に伴って、相談件数は増加する傾向にあるようにみえる。

このことは、問題を抱える留学生自体が増えつつあるとも解釈されるが、他方、相談チャネルが増えたことによって、従来は相談室に足を運ばなかった学生が相談に来るようになったとも考えられる。もしそうであるならば、相談窓口を増やすことによって、問題の早い段階で相談にのることができ、不適応感や不安感を持ち始めた段階で対処したり予防的関わりをとることがしやすくなるといえよう。

2．留学生のための交流活動

外国人留学生との交流活動は各学部等においても行われているが、留学生センターとしても全学の留学生及び日本人学生を対象とした交流活動を実施している。このような交流活動は、留学生が日本人との友情の輪を広げ日本理解を深めるという意味で重要であるばかりでなく、日本人学生（特に留学生との接触の機会の少ない学部学生）にとっても有意義なことである。

(1) インターナショナル・ティータイム

この活動は、留学生のみならず日本人学生及び教職員が自由に懇談や討論し交流できる

場を提供するもので、1991年から実施している。1994年度までは本活動に対して特別な予算措置はなされてこなかったが、1995年度からは予算措置がなされている。

1996年度は、5月10日及び11月29日の2度開催した。いずれの場合も100人以上の参加をみており、特に日本人の学部学生の参加者の増加が顕著である。当センターが実施した参加者へのアンケート調査でも（11月29日に実施）、学部学生の間で学内での国際交流活動への要望が強いことが明らかになっている。

大学院学生に比べて留学生との接触が少ない学部学生のために、当センターとしても、交流の場を設けるよう一層努力する必要があろう。

(2) 異文化交流セミナー

この教育セミナーは、留学生に異文化の中での問題への対処能力を身につけさせるとともに、日本人学生に対しては国際交流の資質向上を促す教育的機会を提供することをねらいとして、留学生特別経費により1995年度から実施しているものである。セミナーの具体的な内容としては、参加者（留学生及び日本人学生）の間で実験的に異文化体験の状況を設定し、そのような状況への対処の仕方を学習させたり、例題に基づくディスカッションなどを通じ相互理解の仕方を学ばせるものである。

1996年度は、1月24日及び2月21日の2度開催した。上述したように日本人の学部学生に対して国際交流を学ばせる機会を提供するという意味からも、また、1996年10月から受入れを始めた短期交換留学生も異文化体験への関心が高いことから、今後この種の活動を一層拡充させる必要があろう。

3．学内関係者との連携・協力――「広島大学留学生教育連絡協議会」の設置

留学生数の増加とそれに伴うニーズの多様化に対処するためには、全学的な組織的対応が必要なことから、1992年6月に「留学生関係教官懇談会」を発足させた。この懇談会は、各学部の留学生専門教育教官と留学生センターの教官とが、留学生にかかわる様々な問題について自由に情報・意見を交換する非公式な場として設けられたものである。毎年2～3回の会合を持ってきたが、1996年は5月9日に開催した。

さらに1996年7月24日には、全学の連携・協力体制を一層強化するため、この「懇談会」を発展的に解消して、留学生センター運営委員会の下に「広島大学留学生教育連絡協議会」を学内の正式な組織として設置した。同「協議会」は、留学生センター運営委員会委員、各学部等の留学生専門教育教官、留学生センター教官等からなっており、留学生教育にかかる諸問題を協議するとともに、留学生のための具体的な施策を実施する組織でもある。留学生センターがこの「協議会」の事務局を努めている。

当面の活動として、全学で活用できる留学生関係資料、「学生チューターQ＆A」を作

成・配布したほか、「留学生生活総合ガイド」を作成中である。また、今後緊急事態への対応の在り方などについても検討することとしている。

4．留学生に関する情報提供・助言

上記「1」で述べたとおり、留学生相談のかなりの部分が情報提供を求める相談であることからみても、留学生は各種の情報を必要としており、刊行物等を通じ留学生に対して十分に情報を提供することはきわめて重要である。また、留学生に接する教職員や日本人学生に対しても適切な情報を提供することが求められており、これに適切に応える必要がある。

(1) 留学生に対する情報提供・助言

留学生センターでは、日本語研修生等当センターが直接受入れにかかわる留学生及びセンターの教官が主事を務める国際交流会館入居者のために、1996年度も例年どおり、渡日時に（年2回）オリエンテーションを実施するとともに、必要な情報資料を作成・更新し配布した。

一方、上述のとおり、全学の留学生が広く活用できる情報資料として、「留学生生活総合ガイド」の作成作業を「広島大学留学生教育連絡協議会」において進めている。

また、1996年3月開設した当センターのホーム・ページを随時更新し、センターの概要や留学情報のほか、留学生のための修学上・生活上必要な情報を提供している。

(2) 日本人学生、教職員に対する情報提供・助言

留学生が充実した学生生活をおくる上で、学生チューターの果たす役割への期待は大きく、そのためチュータに対して適切な指導・助言を行う必要がある。

留学生センターでは、1996年度も例年どおり、日本語研修生等当センターが直接受入れにかかわる留学生のための学生チューター用の指導資料として「チューター用資料」を作成し、これを基にオリエンテーションを実施した。このオリエンテーションでは、留学生に必要な手続きの情報伝達にと止まらず、留学生との接し方など教育的見地からの指導が行われている。

また、全学で利用できる資料として、学生チューター経験者のアドバイスを集めた「学生チューターQ＆A」を「広島大学留学生教育連絡協議会」において作成した。

また、教職員に対する情報提供・助言については、これまで指導部門の教官が個々に相談に応じてきたが、直接留学生の指導に当たる指導教官等を側面からバックアップするために、「教職員のための異文化理解セミナー」（仮称）の実施など、広く情報提供を行う方策を検討中である。

5．留学生に関する調査研究

1990年の留学生センター設立以来、現在まで留学生や日本人学生を対象として、6回調査研究を実施した。1996年度新規の調査は行わず、1996年2月に実施した「日本人学生・留学生交流調査」（アンケート調査）の結果をとりまとめた。

留学生の属性やニーズが多様化するなか、このような実践的な調査研究は留学生の実情を把握する上で益々必要となっており、留学生が直面する問題を考慮しながら、引き続き調査研究を続けていくこととしている。

6．学外との連携・協力

学外との連携・協力には、他大学（主として国立大学）の留学生指導担当部門等との情報・意見交換及び自治体や民間団体への協力がある。比較的多くの外国人留学生を受け入れている大学として、その経験から得られた情報や知見を他大学や社会一般に還元することは当然の役割である。また一方、他大学や地域社会との連携・協力を深めることは、本学における留学生の受入れ体制を充実・強化する上でも有意義なことである。

(1) 講演・討論会の開催

当指導部門では、学外との連携・協力の一環として、1991年度から毎年（1994年度を除く）、「留学生指導の現状と課題」という総括的なテーマの下に講演・討論会を実施している。

この講演・討論会は、主として国立大学において留学生指導に携わっている教官や関係分野の専門家を招いて、留学生指導について直面する諸問題を討議するとともに、留学生に関する研究成果の発表や講師の方々から留学生を理解する上での知見を学ぶ場を提供するものである。1996年度は2月7日に「留学生に関する調査研究から」と題して開催し、各大学での調査研究を基に、留学生指導の在り方について討議した。

この講演・討論会は学内の教職員や学生にも開かれており、国立大学留学生センターの教官など外部からの参加者24名のほか、広島大学留学生センターの教官など約20名の学内参加者があった。

なお、1996年2月9日に実施した1995年度の講演・討論会「留学生指導の現状と課題―諸外国の実践に学ぶ」の報告書を作成し配布した。

(2) 「国立大学留学生指導研究協議会」

1996年5月、国立大学留学生センター指導部門担当者を中心として「国立大学留学生指導研究協議会」が設立された。「協議会」の設立に当たっては、本留学生センター指導部門担当教官が中心メンバーのひとりとして貢献するとともに、現在庶務担当幹事として積極的に協力している。

この「協議会」は、国立大学において留学生指導に携わる教職員が様々な問題について自由に情報・意見の交換を行うとともに、留学生に関する幅広い研究を推進することを目的としている。特に、E－mai によるパーティを開設しており、これを通じ迅速な情報・意見交換ができることが特色となっている。

7．留学を希望する日本人学生に対する指導助言

本学から外国に留学している学生数（1995年度約70人）が受入れ外国人留学生（同年度552人）に比べきわめて少ないこともあり、海外留学に関する相談は年10件程度と少ないのが実情である。このような留学相談のほか、留学生課が毎年開催している「海外留学のための説明会」において留学についての心がまえなどについて指導を行っている。

現在大学間協定に基づく交換留学制度による留学が推進されていることから、当センターの交流部門とも連携・協力しつつ、海外留学相談体制の整備を図る必要がある。

当面，外国の大学の入学案内の収集や国内の海外留学関係機関とのコンタクトなどにより、海外留学に役立つ情報の収集に努めている。

教育交流部門・広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム

堀　田　泰　司
（広島大学留学生センター・講師）

広島大学短期交換留学（以下、HUSA）プログラムは、文部省の推進する短期留学推進制度の一環として、特に日米文化教育交流会議（カルコン）においてジュニア・イヤー・アブロード・プログラムによる留学生の受け入れを積極的に推進するよう勧告されていることもあり、アメリカ合衆国を主たる対象国としながらカナダ、オーストラリア、マレーシアその他アジア・太平洋地域の国の大学（短期学生交流協定校）に在籍する学部学生で、本学に一学期若しくは一学年度の短期間留学を希望する者を対象とするもので、特別に「英語による授業科目」を、開設することでもって、本学で教育を受ける機会を提供し、もって学生交流を活性化させ、本学の一層の国際化に資することを目的とするものである。そのために特に本学では、総合科学と言う観点から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を増進する専門的科目を提供し、将来日本やアジアの事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生の国際感覚の養成と海外留学を活性化することが出来るようなプログラムを提供する。

HUSA プログラムは、その実施委員会によって統轄されており、委員会は、合計20名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されている。但し、実務的な管理運営には、留学生センターの教育交流部門並びに留学生課がその主たる業務を行っている。また、受け入れ学生に対する授業科目は、各学部が独自に開講している。

Ⅰ．受け入れプログラムの概要：

① 受け入れ期間：一学期又は、一学年

② 募集人員：30名

③ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する。

④ 応募資格：(1) アメリカ合衆国を主としたアジア・太平洋地域の大学の学部学生であること

(2) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生

(3) 原則として自国の大学の正規課程３年次の学部学生

(4) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者

(5) 非英語圏から応募する学生にあっては英語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者

⑤ 選考方法：別途設置する選考委員会において書類選考する。

⑥ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで総括しながら、それぞれ専門に応じて本学の指導教官を定め、各学部で「特別聴講学生」（広島大学学生交流規程）として受け入れる。

⑦ 授業料等の不徴収：交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）

⑧ カリキュラム：1996年度に開設された授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された英語による授業であり、「常設科目」は、すでに総合科学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えた授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設している日本語・日本事情の科目である。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統轄は各学部で行われている。以下が96年度に開設された授業科目一覧表である。

1996年度（96年10月～97年7月）授業科目一覧

1．特設科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
アジアの哲学と宗教	2単位	秋学期	文学部
比較教育学	3単位	秋学期	教育学部
カリキュラム開発論	2単位	秋学期	教育学部
日本のスポーツと文化	3単位	秋学期	教育学部
日本の社会経済システム	2単位	秋学期	経済学部
国家財政システム	2単位	秋学期	経済学部
日米貿易摩擦論	2単位	秋学期	経済学部
日本の製造業	2単位	秋学期	工学部
応用微生物学	2単位	秋学期	生物生産学部

微生物生態学研究法	2単位	秋学期	生物生産学部
特別課題研究	4単位	秋・春学期	各学部
仏教学	2単位	春学期	文学部
日本の心理学研究	2単位	春学期	教育学部
高等教育論	2単位	春学期	教育学部
開発教育論	2単位	春学期	教育学部
カリキュラム開発論	2単位	春学期	教育学部
日本の企業	2単位	春学期	法学部
日本の金融システムとデータ分析	2単位	春学期	経済学部
日本経済論	2単位	春学期	経済学部
生物工学概論	2単位	春学期	工学部
平和と人権	2単位	春学期	HUSAプログラム実施委員会

2．常設科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
現代演劇映画論	2単位	秋学期	総合科学部
社会・人類言語学演習	2単位	秋学期	総合科学部
児童文学論演習	2単位	秋学期	総合科学部
女性学特別演習	3単位	秋学期	総合科学部
関数解析	2単位	秋学期	総合科学部
計算機インターフェース論	2単位	秋学期	総合科学部
環境化学	2単位	秋学期	総合科学部
現代演劇・映画論演習	2単位	春学期	総合科学部
比較文化論	2単位	春学期	総合科学部
言語応用論演習	2単位	春学期	総合科学部
言語思想論特別講義	2単位	春学期	総合科学部
現代詩論特別演習	2単位	春学期	総合科学部
量子力学演習	2単位	春学期	総合科学部
生体防御学	2単位	春学期	総合科学部
環境科学野外実習	2単位	春学期	総合科学部

3．日本語関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語・日本事情A	2単位	春学期	総合科学部
日本語・日本事情B	2単位	秋学期	総合科学部
日本語初級Ⅰ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級Ⅱ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級Ⅲ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅰ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅱ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅲ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅳ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅴ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅵ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅶ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅷ	2単位	秋・春学期	留学生センター

⑨ 受け入れ体制の整備：(1) 学生宿舎（日本人・留学生混住型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。 (2) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。 (3) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保証（広島大学）とする。

II．1996年度 HUSA プログラム受け入れ状況：

1996年度は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、マレーシアの6大学から計17名の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が1年間の滞在を希望しており、男女別で見ると男子学生7名に対し、女子学生は10名と男子を上回っている。

派遣国	大学名	期間	人数（男：女）
アメリカ	フロリダ州立大学	1年	1名（0：1）
	メリーランド大学	1年	1名（1：0）
	ミネソタ大学	1年	5名（3：2）
カナダ	カルガリー大学	1年	2名（1：1）
		1学期	1名（0：1）
オーストラリア	ニューイングランド大学	1年	4名（1：3）
		1学期	1名（0：1）
マレーシア	マラヤ大学	1年	2名（1：1）
合計			17名（7：10）

所属学部別

所属学部	人数（男：女）
総合科学部	5名（3：2）
文学部	2名（0：2）
教育学部	3名（1：2）
学校教育学部	1名（0：1）
経済学部	3名（1：2）
工学部	3名（2：1）
合　計	17名（7：10）

III．1996年度 HUSA プログラム受け入れ活動：

① 選考：1996年度募集要項は、昨年1～2月中に派遣大学へ配布され、4月に各大学から参加希望者が推薦された。そして、5月には、本学の選考委員会によって正式決定された。

③ 渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションを兼ねて「広島大学」及び「東広島市」「広島市」に関する情報等を各学生に送付した。また、学生の個人的な質問等には、電子メールとファックスを活用し、個々のケースに対応した。

③ チューターオリエンテーション：日本人学生チューターは、留学生の渡日以前に決まっていたので、学生チューターに対し事前のオリエンテーションを行った。特に、留学生到着後の第1週目の事務手続き並びに寮または民間アパートへ入居するまでの具体的な支援活動について説明を行った。

④ プログラムオリエンテーション：短期留学生到着後の第1週目に HUSA プログラムのオリエンテーションを実施委員会委員長を始めその他委員の参加の下に開催した。具体的には、委員長挨拶、カリキュラムの説明、大学施設の案内、電子メールの申し込み等が行われた。

⑤ 見学研修：留学生センターが実施している見学研修に参加する形で短期留学生にも広島近郊の史跡見学、企業訪問等を行っている。また、短期プログラム用特設科目の指導教官が授業の一貫として独自に様々な見学旅行を実施している。

⑥ 授業履修状況：秋学期の履修状況は、概ね全員が12～15単位、授業科目数にして、

6～9教科授業を履修している。各学部で開講されている科目が初年度のため比較的少ないので、多くの学生は自分の専門分野以外の教科にも積極的に参加している。また、短期留学生の殆どが日本語習得に熱心なため、留学生センターは短期留学生のニーズに合った補講授業を今学期新たに開講した。

III. 1997年度HUSA留学生派遣計画：

本校の短期留学生派遣は、12月24日選考試験、2月中に実施委員会で選考、受け入れ大学へ推進と言う計画で現在進行している。以下は、派遣学生の募集に関する資料の一部を抜粋したものである。

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム
派遣学生の募集について

1　制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は、複数学期教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度で、1996年度後期から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、マレーシア等アジア、太平洋諸国の大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、平成9年度後期から本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており平成9年度について、別紙の通り募集する。

2　出願書類：

①　申請書
②　留学計画
③　TOEFL成績表（500点以上が望ましい）
④　学業成績証明書

3　出願書類提出締め切り：1996年11月25日(月)

4　選考：

応募条件を満たしている者に対し、留学計画、TOEFL成績、学業成績、面接（口述）試験の結果に基づき選考する。第二希望大学まで選考の対象とする。

5　面接（口述）試験日：1996年12月24日(火)

6　決定：平成9年2月ごろ協定校へ推薦し、最終決定は、協定校の決定によるものとする。

7　学生の身分：派遣先大学は、短期学生交流協定大学であるので、授業料、検定料、入学料等は通常通り広島大学に収め、派遣先大学では、支払う必要がない。但し、奨学金の支給はなく、生活費は自己負担になる。

Ⅴ．1997年度 HUSA 留学生派遣事業の現況：

12月初旬に応募を締切り、12月24日には延べ15名の留学を希望している日本人学生に対し面接試験を行った。最終的な選考・推薦は、2月中旬以降に実施委員会によっておこなわれる予定である。

Ⅶ．1997年度 HUSA プログラムに向けたその他の事業の状況：

1997年度 HUSA プログラム用のさまざまなパンフレット、ガイドブック等の編集事業を1月から3月にかけて行っている。1つは、受け入れ学生用のパンフレット、ガイドブックの作成であり、もう一つは、派遣される日本人学生用の協定校に関するガイドブックである。また、海外留学全般に亘るガイドブックも作成される予定である。これらは、いずれも1996年度に受け入れた HUSA プログラム留学生の協力の下に編集されている。また、インターネット上の HUSA プログラムのホームページ作成も行っている。1997年4月には、HUSA ホームページが開設される見込みである。